

目標達成計画

事業所名 グループホーム安全の里

作成日：令和 7年 2月 22日

評価結果

市町提出日：令和 年 月 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	現在、家族様の希望も多く、近況また活動報告はSNS、電話連絡の方法をとらせてもらっているが今後は更に活動報告を充実していきたい。	家族様に今以上に利用者様の施設での生活の様子を知ってもらい、情報交換を行い更なる良好な関係性を築いていく。	定期的な連絡、報告を継続し新たに4月よりグループホーム便りを定期的に作成、発行し、ゆくゆくは毎月発行し活動報告を充実していく。	12か月
2	4	現在、家族様の希望も多く、近況また活動報告はSNS、電話連絡の方法をとらせてもらっているが今後は更に活動報告を充実していきたい。	家族様の希望や意見を聞かせてもらい、今以上に施設での取り組みを知って頂き、また家族様同士の交流機会にも繋げていきたい。	4月より家族様全員に運営推進会議への参加の連絡を行い、多数の方の参加を募る。	12か月
3					か月
4					か月
5					か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

サービス評価の実施と活用状況（振り返り）

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	○ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	○ ②利用者へサービス評価について説明した
	○ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	○ ④運営推進会議でサービス評価の説明をした
	○ ⑤その他（ ）
2 自己評価の実施	○ ①自己評価を職員全員が実施した
	○ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	○ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	○ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	○ ⑤その他（ ）
3 外部評価（訪問調査当日）	○ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	○ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	○ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	○ ④その他（ ）
4 評価結果（自己評価、外部評価）の公開	○ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	○ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	○ ③市区町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	○ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	○ ⑤その他（ ）
5 サービス評価の活用	○ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	○ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した（する）
	○ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した（する）
	○ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ（取り組む）
	○ ⑤その他（ ）

自己評価表

- 自己評価は全部で68項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かし

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目数
14

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有と実践
2. 事業所と地域とのつきあい
3. 運営推進会議を活かした取り組み
4. 市町村との連携
5. 身体拘束をしないケアの実践
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映
7. 運営に関する職員意見の反映

8

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 馴染みの人や場との関係継続の支援

13

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 思いや意向の把握
2. チームでつくる介護計画とモニタリング
3. かかりつけ医の受診支援
4. 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援
5. 災害対策

20

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保
2. 食事を楽しむことのできる支援
3. 排泄の自立支援
4. 入浴を楽しむことができる支援
5. 日常的な外出支援
6. 居心地のよい共用空間づくり
7. 居心地よく過ごせる居室の配慮

13

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）

合 計 68

○記入方法

自己評価と外部評価は共通の同一のシートを使います。

自己評価は、プロセス項目（項目№1～）のサービスの実施状況から記入します。

プロセス項目を点検した後、その成果について、1枚目のアウトカム項目を記入します。グループホームは、ユニット毎に自己評価を行います。ユニットが複数ある場合、評価シートをコピーして記入します。（アウトカム項目もユニット毎に記入）ただし、事業所概要、アピール点の記入は1ユニット目の評価票に記入します。

○自己評価のポイント

各項目の「考え方の指針」にそって、何をどのように取り組んでいるのか、何に取り組めていないのか、職員全員が実践状況を振り返ります。管理者はそれを集約し、自己評価の「サービスの実施状況」としてまとめます。取組みの十分・不十分が事業所の優劣のように誤解されがちですが、正確な現状把握こそ、その事業所の問題意識の表れでもあり、次のステップに向けたスタートラインの見極めにもなります。

○用語の説明

家族等・・・家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族・・・家族に限定しています。

運営者・・・事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職 員・・・管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム・・・管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

事業所名	グループホーム安全の里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町名)	三重県亀山市住山町590番地1
記入者名 (管理者)	別府 正樹
記入日	令和 6年 12月 15 日

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter)-) です。]

自己		外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所で新たなキャッチフレーズを考え支援を提供している。		
2	(2)		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策が緩和され以前に比べて家族や地域との交流が徐々に増えてきている。		
3			○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて活動の報告等を実施している。		
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各関係者からの助言を頂きサービス等に活かしている。		
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との協力関係の構築、体制はできしており、定期的に連絡を取り合っている。		
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や施設内学習会にて職員の意識、知識の向上、情報の共有を図っている。		
7			○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や施設内学習会にて職員の意識、知識の向上、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	委員会や施設内学習会にて職員の意識、知識の向上、情報の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明を行っている。また改定時にはその都度、文書と口頭にて説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的な電話連絡等により、近況報告や相談等を随時行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常業務の中で職員の意見を聞き取り反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて定期的な給与規程の見直し、勤務状況の把握を行い、職員の労務実態を常に把握し、過労等がないかを注意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修等、人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会がなく、同業者との交流は図れなかった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で、積極的に関わりを持つことを心がけ、職員間で情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に連絡を取り、要望等や情報交換を行いながら良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態が変化していく中で随時、報告、相談、提案を行い、また連携医療機関等にも相談し助言を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者様の尊厳を尊重した関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限が緩和され、以前に比べて交流は増えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各職員が利用者同士の関係性を把握し、居場所の工夫等を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設でも安心してサービスが受けられるように退所前の相談、他施設に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で思い等を聞き取り、また家族様にも情報収集を行い、把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや家族様の情報を元に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で様子観察を行い、職員間にて情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にて意見を出し合い、反映し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICT、連絡ノートを活用し介護記録を入力し、申し送り等で情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにより対応できないこともあるが、出来る限り柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域資源の活用をし切れていないが今後、更に把握し、活用していくように努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し、主治医との情報共有を行い、関係も良好に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと随時連携し、適切な対応や助言を受けられる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	随時、家族、病院関係者との情報交換や相談を行っている。また訪問看護ステーションからの助言や協力もあり、病院関係者との円滑な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化や重度化が進行していく中で、その都度家族、医療機関に相談し連携を取り合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師の助言を受けて対応している。また、施設内学習会にて緊急時の対応についての知識を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の防災訓練、また施設内学習会にて意識の向上を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いやその人に合った言葉がけの工夫を随時考え情報共有を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、本人の思いを聞き入れ、自己決定してもらえるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の生活スタイルやペースを把握しながら、利用者の希望に沿った利用者主体の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりのこだわりや、嗜好を把握し支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いや希望を調査し、誕生日や行事食には手作り料理を提供し、時には利用者と一緒に調理に関わってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の助言を基に食事中の観察や状態を把握し情報共有を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを職員が付き添い実施し、また定期的な歯科往診にて治療や助言を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄状態を確認また共有を図り随時変更等を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を確認し訪問看護師、主治医と連携を行い下剤の服用にて排便コントロールに努めている。また軽体操、水分摂取を促し自然排便ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎週2～3回入浴してもらえるようにスケジュールを組み、また本人の思いや体調を考慮し誘導を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や照明等の環境整備を行い、就寝前には心穏やかに過ごしてもらえる様に声かけや関わり方に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の内容を職員が確認できるようにしている。また処方の変更等があった場合は随時、連絡ノートや介護記録に反映している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の性格、生活歴、得意な事等を把握しながら職員と一緒に生活リハビリを兼ねて洗濯物たたみや掃除、調理補助を支援し役割づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事の他、中庭の散歩やプランター栽培の花、野菜の水やり等を行っている。また、家族の協力のもと、外出、外食にも行かれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は本部の事務所にて預かっており、日用品の購入や理髪、受診等の際は預り金にて支払いを行っている。また、利用者の希望により財布を自己にて持っている方もみられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある際は施設から電話連絡、取り次ぎを行い支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の尾掃除や整理整頓、室温調整を随時行っている。また、季節の花を生けたり毎月、利用者と一緒に壁飾り、カレンダーを制作し、季節感を感じてもらえるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や希望を考慮し居心地の良い空間づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた株や小物等を家族の協力を得て持って来てもらい環境づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が見守りながら各利用者の残機能を把握し、自立支援の場の環境づくり、整備に取り組んでいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490400112		
法人名	社会福祉法人 安全福祉会		
事業所名	グループホーム安全の里		
所在地	三重県亀山市住山町590番地1		
自己評価作成日	令和 6年 12月 9日	評価結果市町提出日	令和6年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 7年 1月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が出来ることを探し、生活リハビリとして掃除、洗濯物たたみ、園芸等を職員と一緒に実施し役割ややりがいを持ってもらい自立支援に努めている。また、4月より「あなたらしさを大切に」～安心・安全でみんなの笑顔があふれる居場所をつくろう～ この新たなスローガンに沿って毎月の目標を決め実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和6年度域密着型サービス外部評価受審事業者アンケート

施設名（事業者名） グループホーム安全の里

記入者の職名及び氏名 介護課長 別府正樹

① 調査員の対応・態度はよかったですか

こちらの話を丁寧に聞いてくださり、意見に対して色々な経験もふまえて説明してくださり、すごく分かりやすく話をして頂きました。

② 評価項目全てにわたって、調査員と十分話し合うことが出来ましたか

充分に話し合うことが出来ました。今後の活動に活かしていきたいと思います。

③ ステツプアップの気付きを得ることが出来ましたか

話し合いの中で色々なアドバイスを頂き、改善にむけての気付きができました。

④ この外部評価について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入願います

特にありません。

⑤ その他外部評価以外でも、ご意見・ご感想がありましたらご記入願います

特にありません。

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいたアンケートはメールまたはFAXにて、
三重県社会福祉協議会 地域密着型サービス外部評価担当まで、
返信をお願いいたします。

Email: group@miwel.or.jp FAX: 059-227-6618

職員勤務時間表

記入例

	人数	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	0:00
早出	1																				
日勤	2																				
遅出	1																				
夜勤	1																				
パート1	1																				
パート2	1																				
日勤帯																					
夜勤帯																					

記入についての注意点

- ・ 平日の平均的な勤務割りをご記入下さい。特定の個人ではなく事業所としての職員配置です。
- ・ 早出、日勤、遅出、夜勤、又はパート等は、特定の個人ではなく事業所としての職員配置です。
- ・ 日勤帯、夜勤帯は各事業所の時間帯をご記入下さい。
- ・ 日勤者がそのまま宿直に入るなどの特記事項がある場合は、【特記事項】の欄に記入下さい。

事業所名 グリーンホーム安全の里

	人数	5:00	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	0:00
早出	1																				
日勤	1																				
遅出	1																				
夜勤 16:30~ 9:30	1																				
パート1	1																				
日勤帯																					
夜勤帯																					

【特記事項】

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所で新たなキャッチフレーズを考え支援を提供している。	令和6年度のスローガンとして「あなたらしさを大切に」を挙げた。更に毎月の職員会議で月ごとのキャッチフレーズも決め、スローガンに添っているかを考えながら支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策が緩和され以前に比べて家族や地域との交流が徐々に増えてきている。	利用者の手作り作品を、鈴鹿ハンターの「活き活き介護フェスタ」へ出展ができた。利用者も見学に出掛け、帰りに喫茶店へも寄る等、貴重な体験であった。徐々にボランティアの訪問も増えて来ている。	
3		https://www.kaiyokusha.co.jp/10/index.php?action=detail&id=100450112&searchcd=30 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて活動の報告等を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各関係者からの助言を頂きサービス等に活かしている。	定期的開催しており、民生委員の地域についての情報など貴重な意見が多数ある。これからは家族参加に力を入れ、事業所の取り組みを生々の声で伝え、更なる信頼関係を築く予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との協力関係の構築、体制はできており、定期的に連絡を取り合っている。	総合保険福祉センターのオレンジチームから「オレンジ色の花を植えましょう」の取り組みへの参加や、研修案内、介護保険の情報なども早く、行政との協力体制は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や施設内学習会にて職員の意識、知識の向上、情報の共有を図っている。	「身体拘束廃止委員会」は毎月の職員会議に3ヶ月毎に全職員が委員となって開催している。職員研修も3ヶ月毎に行い記録も出来ている。法人全体で取り組んでおり、虐待防止委員会と共に取り組んであり共有体制も整っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や施設内学習会にて職員の意識、知識の向上、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	委員会や施設内学習会にて職員の意識、知識の向上、情報の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明を行っている。また改定時にはその都度、文書と口頭にて説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的な電話連絡等により、近況報告や相談等を随時行っている。	家族との電話は施設長が窓口であり、家族への報告は、ラインでのやり取りが多い。そんな中、家族からの要望として、外食や外出、法事への参加などが多いが、どれも実行し喜ばれている。	家族との関係性は良好である。他に家族参加の行事や、兄弟や友人、親せき等とも話せる「グループホーム便り」等を発行され、色々な方向からの、意見や要望を聞き、更なる良好な関係性を望む。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常業務の中で職員の意見を聞き取り反映に努めている。	4カ国からの職員、年齢層の厚さなど幅広い職員層であるが、それぞれに得意分野があり、活かされている。チームワークもまとまっており、意見交換なども自由に話せる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて定期的な給与規程の見直し、勤務状況の把握を行い、職員の労務実態を常に把握し、過労等がないかを注意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修等、人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会がなく、同業者との交流は図れなかった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で、積極的に関わりを持つことを心がけ、職員間で情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に連絡を取り、要望等や情報交換を行いながら良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態が変化していく中で随時、報告、相談、提案を行い、また連携医療機関等にも相談し助言を受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の尊厳を尊重した関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限が緩和され、以前に比べて交流は増えている。	家族との面会は居室だが、フロアも一望でき、他の利用者との関係性は変わらない。最近では、鈴鹿ハンターへの外出、一人ひとりの馴染みへのドライブや、一番の馴染みである病院受診は貴重な時間となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各職員が利用者同士の関係性を把握し、居場所の工夫等を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設でも安心してサービスが受けられるように退所前の相談、他施設に情報提供を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で思い等を聞き取り、また家族様にも情報収集を行い、把握に努めている。	自分の思いや話しを伝えられる利用者は多く、耳の遠い利用者とのボードでのやり取り、大きな声での対応など、自己決定も出来る。外出や外食の希望などへも対応している。年賀状を書く利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや家族の情報を元に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で様子観察を行い、職員間にて情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にて意見を出し合い、反映し介護計画を作成している。	職員は利用者担当制で細部の情報を担っており介護計画に活かされている。毎月の職員会議にて、利用者状況や意見交換を行い、半年ごとに評価し次に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICT、連絡ノートを活用し介護記録を入力し、申し送り等で情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにより対応できない事もあるが、出来る限り柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域資源の活用をし切れていないが今後、更に把握し、活用していくように努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し、主治医との情報共有を行い、関係も良好に努めている。	亀山医療センターの協力医へ、利用者4人が月1回受診へ出掛け、他の利用者は今までのかかりつけ医へ家族と共に出掛けている。週1回看護師の訪問もあり、安心に繋がっている。各医師や看護師の連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと随時連携し、適切な対応や助言を受けられる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	随時、家族、病院関係者との情報交換や相談を行っている。また訪問看護ステーションからの助言や協力もあり、病院関係者との円滑な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化や重度化が進行していく中で、その都度家族、医療機関に相談し連携を取り合っている。	看取りについては、入居時、看取り開始時、終了時など、その都度、説明し同意を得ている。昨年は3名の看取りがあった。夜間帯に急変し間に合わなかった家族は、職員がずっと寄り添って支援していた事を知り、感激される等、事業所としても貴重な体験もあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師の助言を受けて対応している。また、施設内学習会にて緊急時の対応についての知識を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の防災訓練、また施設内学習会にて意識の向上を図っている。	法人として訓練は机上訓練を含め、年4回計画し実行している。昨年12月にはカードを使ったHUG(ハグ)訓練も行った。またゾーニング配置図も汚染区域、清潔区域、防護服なども分かり易く書かれていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いやその人に合った言葉がけの工夫を随時考え情報共有を行っている。	毎月の職員会議にて「利用者の気持ちになって」と、利用者の尊厳を重視するようになっている。又、声掛け時、不適切な言葉には直ぐに話し合い、一人ひとりに合った対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、本人の思いを聞き入れ、自己決定してもらえるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の生活スタイルやペースを把握しながら、利用者の希望に沿った利用者主体の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりのこだわりや、嗜好を把握し支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いや希望を調査し、誕生日や行事食には手作り料理を提供し、時には利用者と一緒に調理に関わってもらっている。	味噌汁とご飯は手作りで後は業者からのチルド食である。誕生日や行事食など月に1度は手作り料理である。最近は鍋料理が好評であった。おやつや料理の得意な職員も多く、楽しみのひとつであり喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の助言を基に食事中の観察や状態を把握し情報共有を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを職員が付き添い実施し、また定期的な歯科往診にて治療や助言を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄状態を確認また共有を図り随時変更等を行っている。	トイレの手すりはパイプ状ではなく自立支援用のテーブルであり、一人でも立位が取れるようになっている。また、看護師や理学療法士との話し合いから、水分量や運動量等を活用し、自立に向けた支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を確認し訪問看護師、主治医と連携を行い下剤の服用にて排便コントロールに努めている。また軽体操、水分摂取を促し自然排便ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎週2～3回入浴してもらえるようにスケジュールを組み、また本人の思いや体調を考慮し誘導を行っている。	自立支援介護コンセプターの監修で出来た浴槽は、車椅子の利用者も、簡単に入れる工夫がしてある。職員も危険性も少なく簡単な支援で済み、利用者とのお喋りが進むなど、週3回の入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や照明等の環境整備を行い、就寝前には心穏やかに過ごしてもらえる様に声かけや関わり方に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の内容を職員が確認できるようにしている。また処方の変更等があった場合は随時、連絡ノートや介護記録に反映している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の性格、生活歴、得意な事等を把握しながら職員と一緒に生活リハビリを兼ねて洗濯物たたみや掃除、調理補助を支援し役割づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事の他、中庭の散歩やプランター栽培の花、野菜の水やり等を行っている。また、家族の協力のもと、外出、外食にも行かれている。	衆議院議員選挙の不在者投票への参加、たい焼き鈴鹿インターへの買い物、喜久家の出前、桜やもみじ見学や能褒野神社、亀山城跡、亀山公園、関町へのドライブ等楽しまれた。理事長が花好きで庭に沢山の季節の花を作り、散歩時等の楽しみとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は本部の事務所に預かっており、日用品の購入や理髪、受診等の際は預り金にて支払いを行っている。また、利用者の希望により財布を自己にて持っている方もみられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある際は施設から電話連絡、取り次ぎを行い支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の掃除や整理整頓、室温調整を随時行っている。また、季節の花を生けたり毎月、利用者と一緒に壁飾り、カレンダーを制作し、季節感を感じてもらえるように努めている。	フローアーは広く、照明や立派な天井の梁も自慢である。日当たりも良く、来客の姿もよく見え、良い刺激にもなっている。フローアーから全居室が見えナースコールへの対応も早く安心にも繋がっている。家族の手作りの花もあり居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性や希望を考慮し居心地の良い空間づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や小物等を家族の協力を得て持って来てもらい環境づくりを行っている。	居室は和仕様と洋仕様、トイレ付が3ヶ所あり、選ぶ楽しさがある。他には全室、ベットと洗面台、エアコンがあり、そこへ、机やテーブル、チェスト、テレビ等を並べ、一人ひとり個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が見守りながら各利用者の残機能を把握し、自立支援の場の環境づくり、整備に取り組んでいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490400112
法人名	社会福祉法人 安全福祉会
事業所名	グループホーム安全の里
所在地	三重県亀山市住山町590番地1
自己評価作成日	令和 6年 12月 9日
評価結果市町提出日	令和6年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensyoku.edlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&igvossCd=2490400112-00&serviceId=320
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 7年 1月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が出来ることを探し、生活リハビリとして掃除、洗濯物たたみ、園芸等を職員と一緒に実施し役割ややりがいを持ってもらい自立支援に努めている。また、4月より「あなたらしさを大切に」～安心・安全でみんなの笑顔があふれる居場所をつくろう～この新たなスローガンに沿って毎月の目標を決め実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体は、社会福祉法人として1989年5月から多数の事業所を運営しており、2018年5月に当事業所が開設された。今年7月目を迎え、地域の中での穏やかな暮らしが保たれている。介護の基本である「自立支援」を重視し、三重県下のグループホームでは初導入した、自立支援介護コンセプター上野文規氏監修による、前傾姿勢指示テーブルや自立支援型ユニットバス等、設備にも力を入れている。職員の連携も良く「どこまでひとりで出来るか」を見極め、一人ひとりに合った支援を心掛けていると、職員の声もある。今年度は着取りが続き、家族からの感謝を初め、利用者が手を合わせて見送る等、貴重な体験もあった。更なる成長が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				